



△ 拵物

一 脚うけおくもら傷ふも時
て草木老葉茂る所へ行くと
岸に拵て立時地際守り立て可
利也物も下は量る一斗は
一斗一担あるふなり

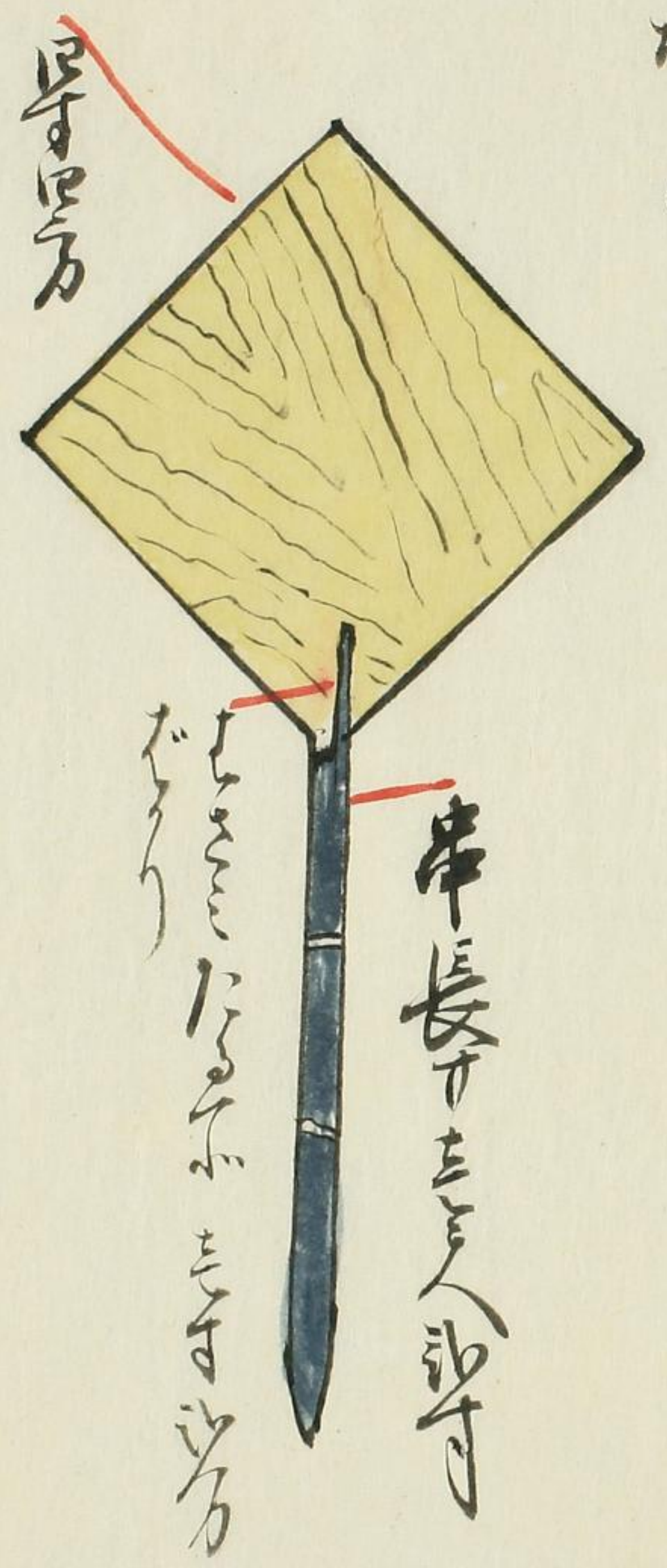
一 四半乃半方八寸の拵物と思ふ
切てそのふを云也一斗は六方寸
なる拵物成る切てわきへ板檜板



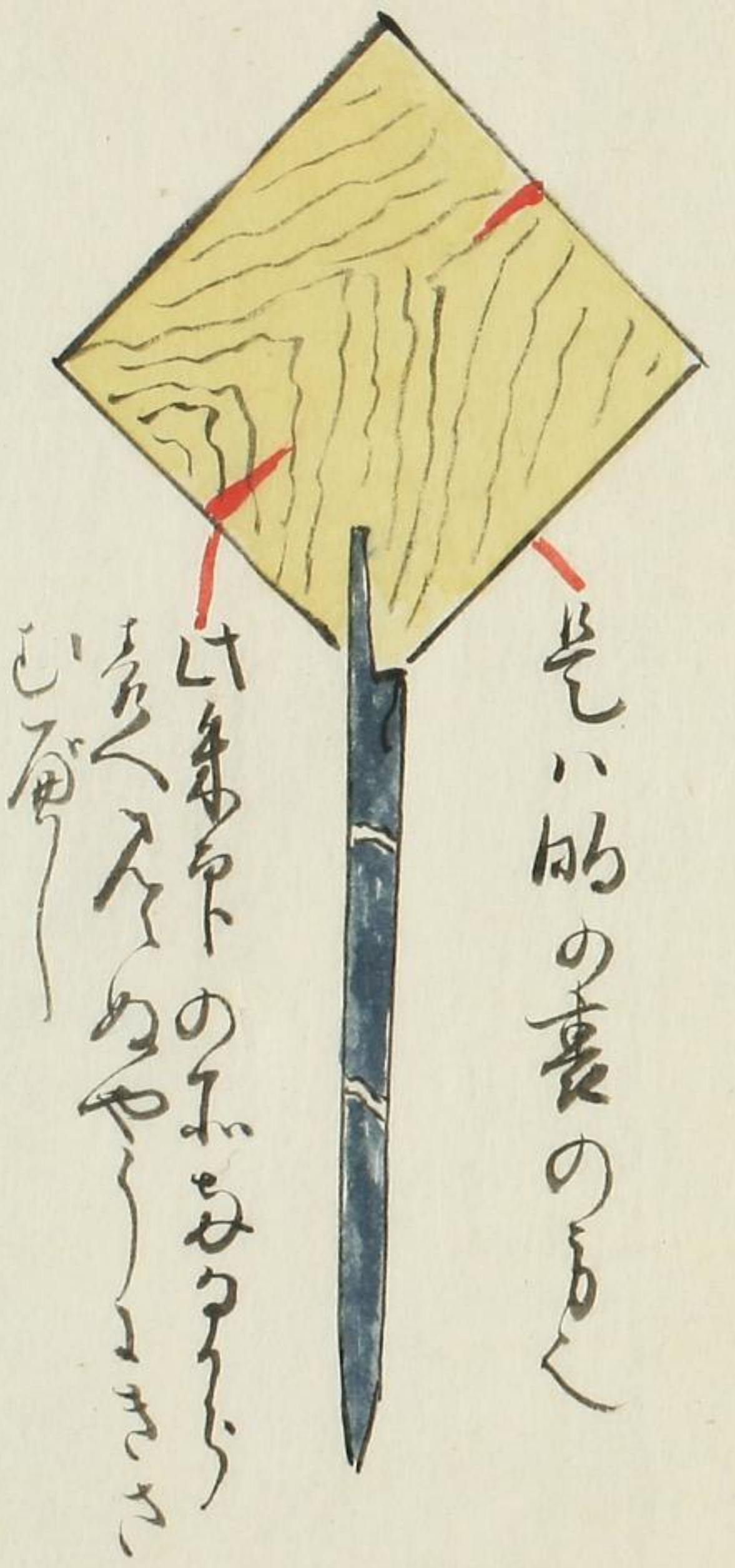
△ 拵物

一 跡うけおくもら場ふも時とて
 て草木を束ねた處へ行つて
 拵を拵て立時地際よりはいて可
 村へや物るひ下は量るし時れ
 一 跡一たふあつふあつ

一 四半乃半方八寸の拵を思ふ
 切しを心分を云也一ひふ方守
 なる拵を法写し切をきくは檜板
 おく方守の上化る角を拵へ木に
 して竹をも工作長を是人計す斗
 是とてきす拵がけらうりつるを拵
 けり



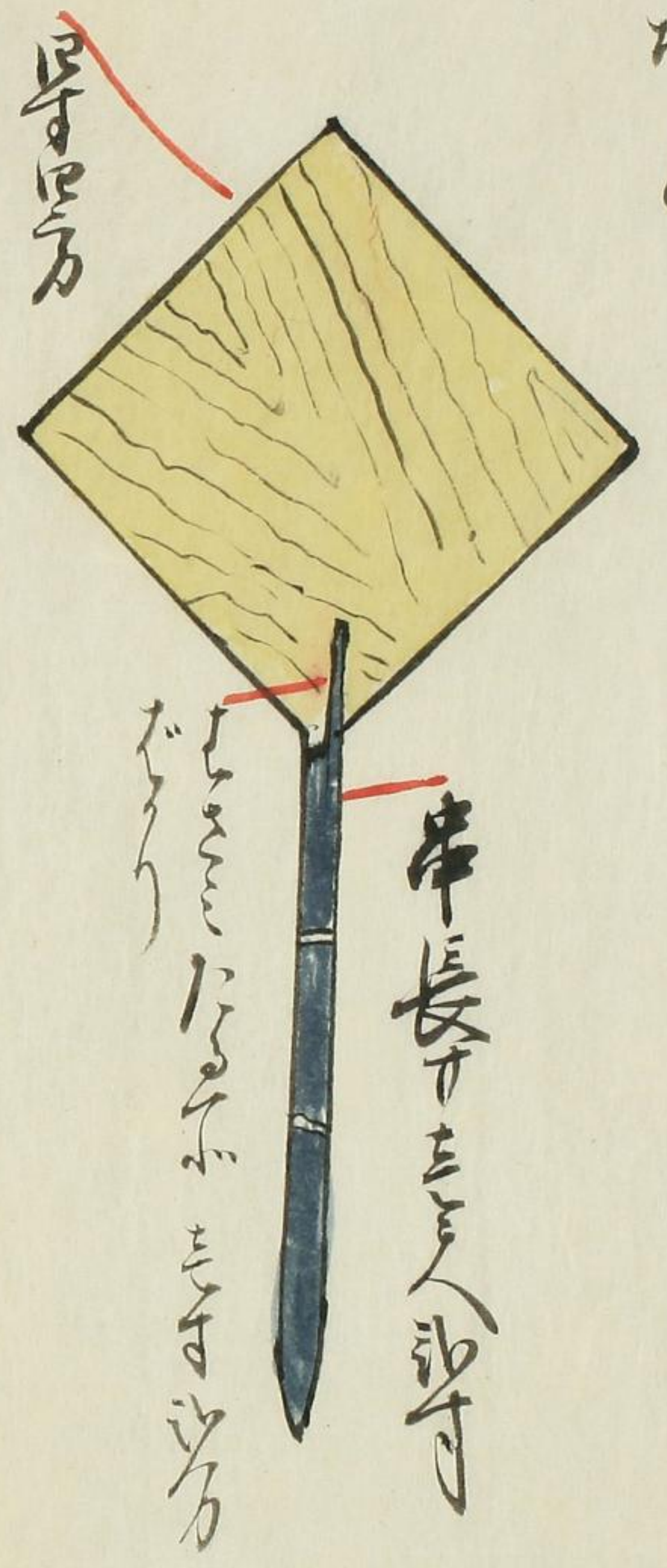
拵はたふあつふあつ



拵はたふあつふあつ

拵はたふあつふあつ

一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗



一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗



一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗
 一 竹もも 工作長サ 三尺五寸斗

一 拵物で射うと変うは白木側白木側
黒木側矢は矢口目よりくす射也
射候存候は義なき望小的の如く
ふらぶ〜自然射して拵物とを
拵負ると射を箇約のこゝにあり候
〜但射ののら矢先中拵負候
定てしとて射也め射は矢は何と略
れある間いふやうにも多し候也
き〜さるるがう望れにせしめ候
古法のれとがことなる候は申へんよ
うらう

一 弓場は凡ゆる草・麻の場よ〜と又
小的場よ〜と式を野馬渡流よ〜
と立てて射く凡ゆる草・麻の場と
らる時ハ的事の色として望之小的場
よ〜と海ハ小楢小つらうり

一 拵物又申矢を〜ハ候中〜
〜と割れて地〜候よ〜
か〜候〜候〜と〜候
あ〜中〜候〜候〜
〜候〜候〜候〜

一挿物の中矢をまじひ様中ら
 とし 割れて地へ落ちるなり
 かきかへしむゆきこぬすれぬ敷
 らるが中のりくちひにふら
 らるしむしれられしやあ
 らく但挿るる年のうらと中
 らるまてきくしむれられむ
 とふも中く挿きこしより下
 の年いづがれり

一割ちられしむしむしむしむし
 幸てきくしむしむしむしむし
 挿れむしむし中へあつとも矢
 こひむしむし挿れむしむしむし
 じむしむしむしむしむしむし
 じむしむしむしむしむしむし

草本之葉挿立様

木葉の挿立様
 一文字の挿立様



挿立

うくろしき

草木之葉挿之様

木葉の根を先一文字に切らり



うくろしき木葉の根を先一文字に切らり



うくろしき木葉の根を先一文字に切らり



一草を先一文字に切らり

うくろしき木葉の根を先一文字に切らり

切て先一文字に切らり

うくろしき

一草を先一文字に切らり



一 草をぬきよきまきしり 何事も右のふ
 りり 大木をぬきよきまきを一つにまき
 切てまきしり 串の作様式の串同和
 ぬきまきしり

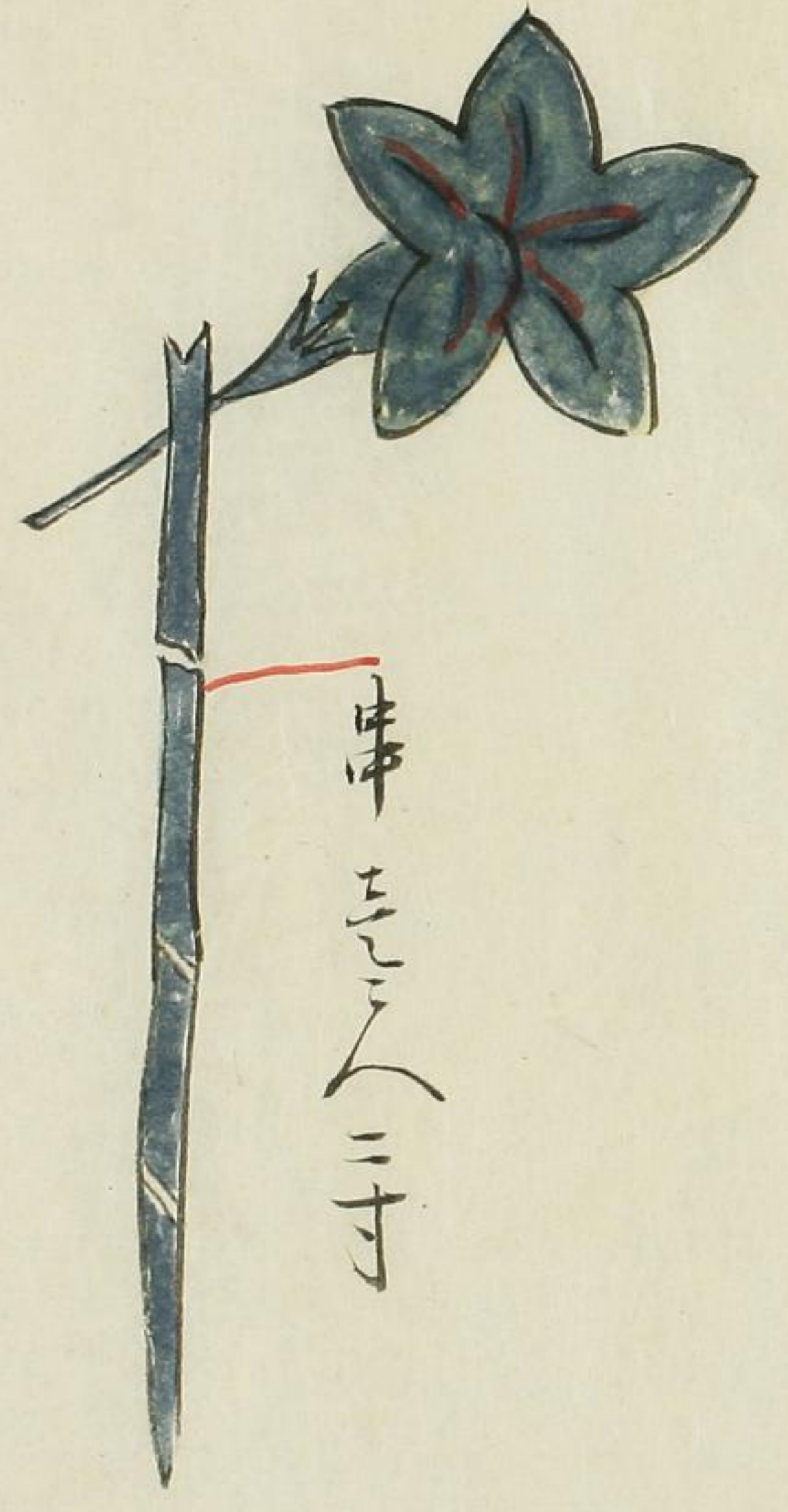
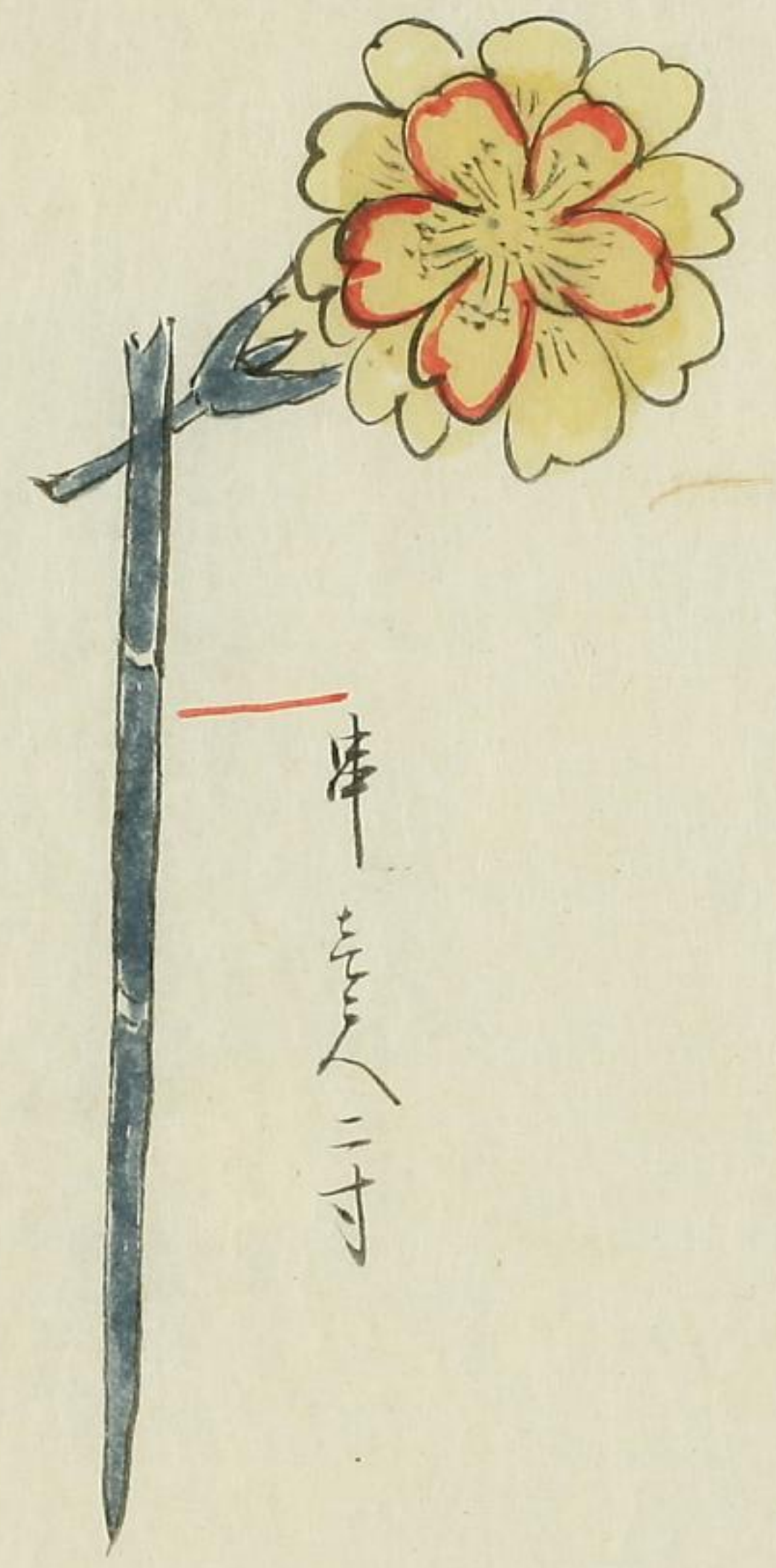
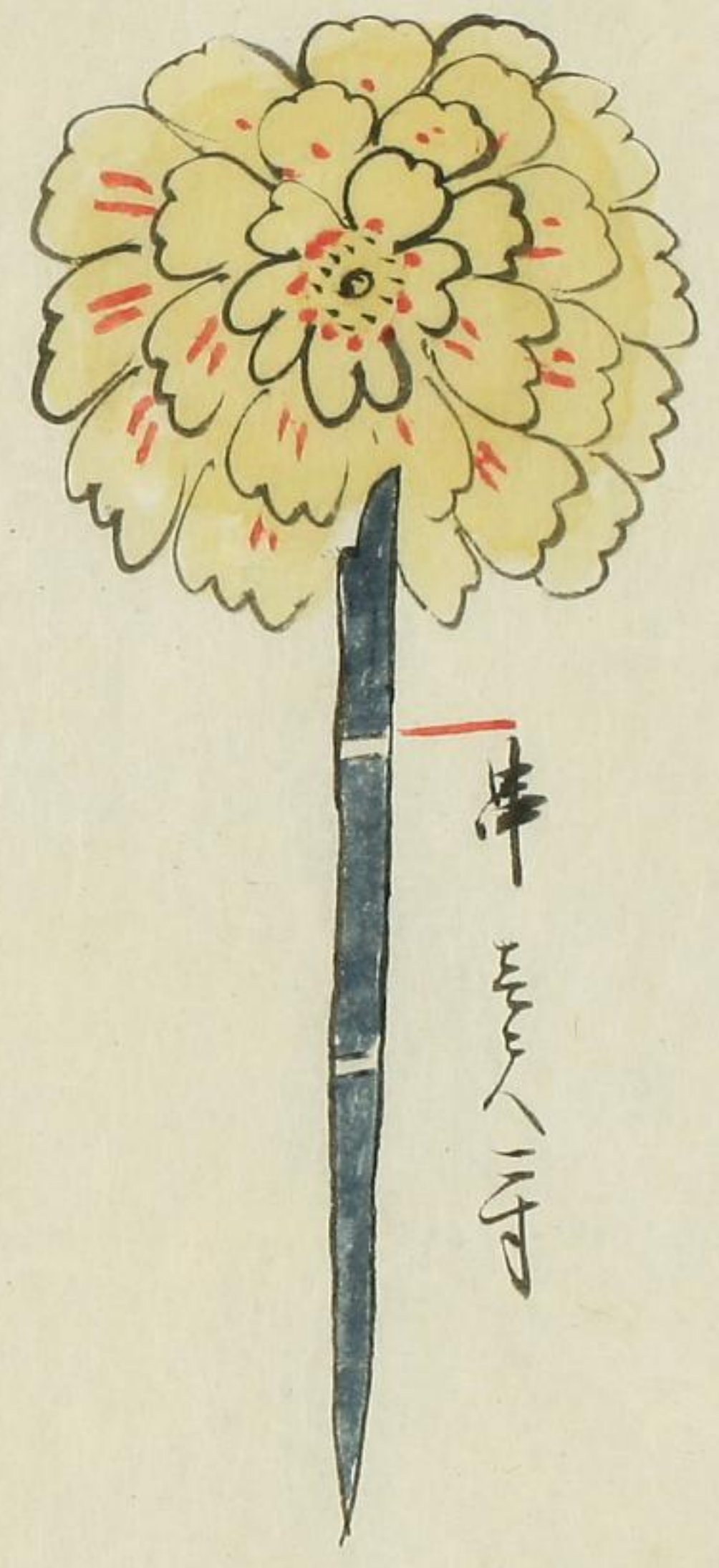
一 大木をぬきよきまきしり 何事も右のふ
 りり 大木をぬきよきまきを一つにまき
 切てまきしり 串の作様式の串同和
 ぬきまきしり

一 村のぬきよきまきの串

梧桐 樹 勝軍 木 兵 浅 木
 紋 何 備 之 名 之 所 紋 直 之 有
 梧桐 之 名 之 所 紋 直 之 有
 新 邦 木 勝 軍 木 之 武 家 之 づ ね
 し 宜 宜 宜 之 軍 用 乃 道 具 之 也
 用 之 乃 道 具 之 也

しきりては軍用乃道具也

花より也



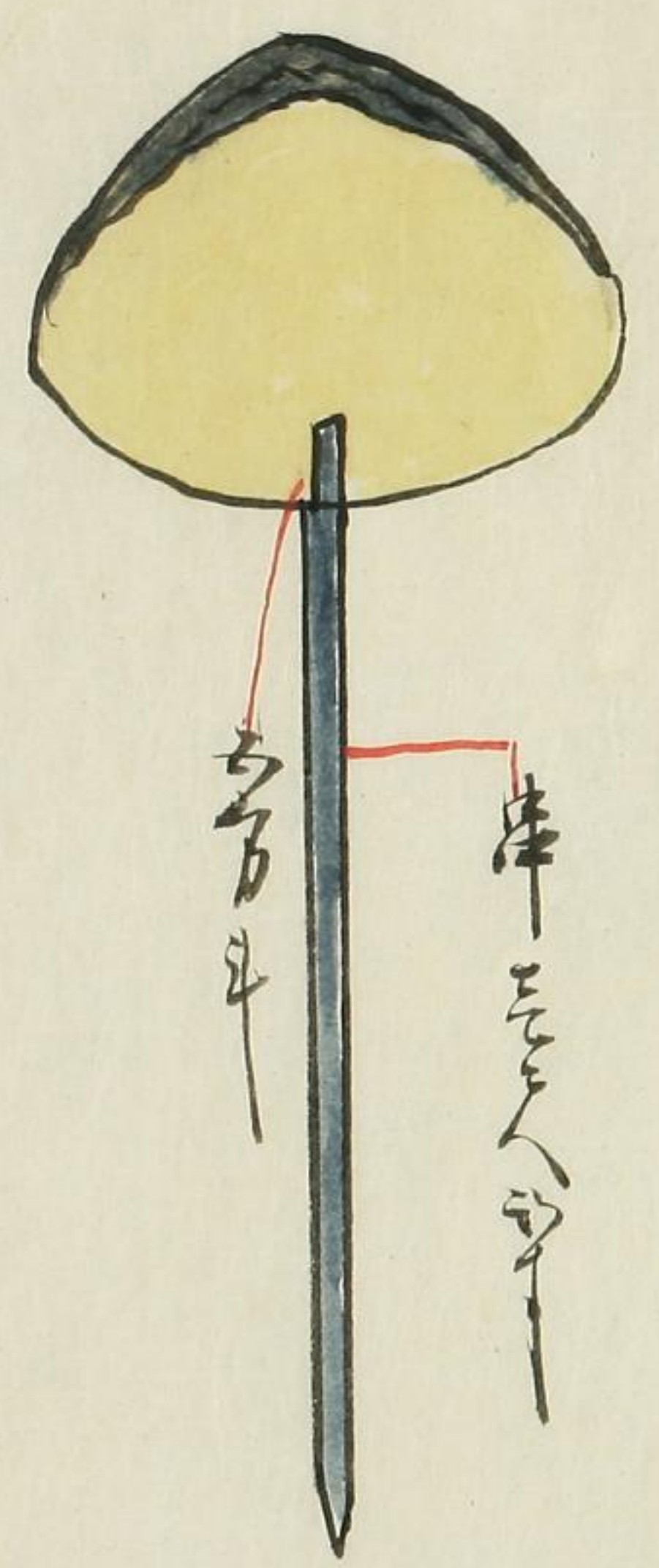
一草花の花何れをも古の如く也

はるばる津の式のおもて

一草舟の形何れも古の如くは
 是より津の式のおとこ

一付る補た房は古よる本
 葉は白くはく菊の花をふれ
 すしきくおまきの水紋被家
 波は波く為ふさ方家く山
 舟の

貝の拵之縁



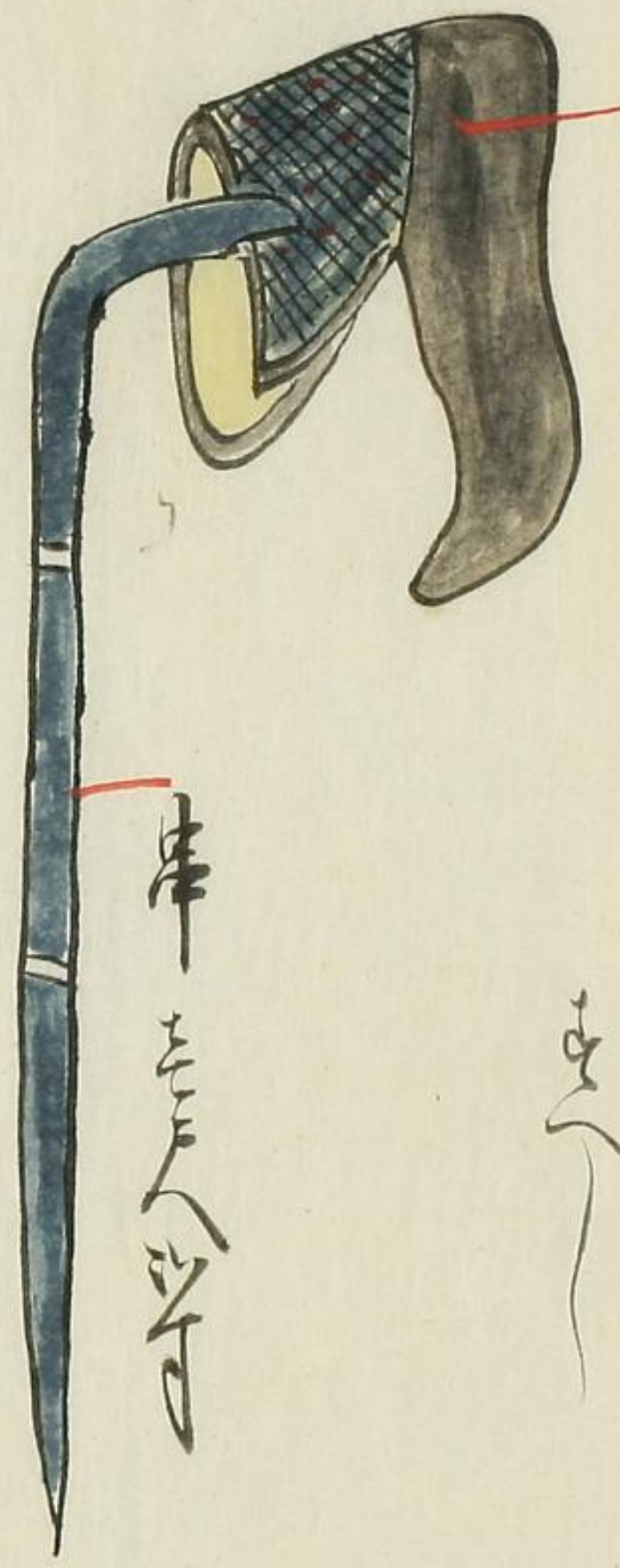
一貝の形も何れも古の如くは
 うらや津の式の内新

一貝取釣糸も何事か右に物さ
うらや 串ハ武のク 日新

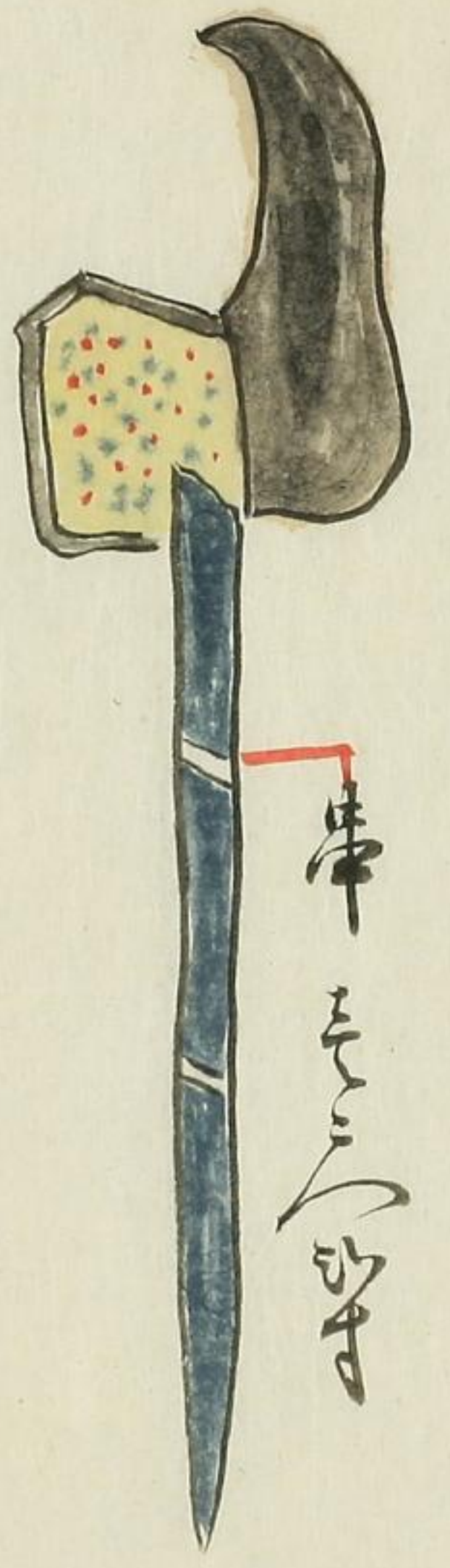
串立板

串立板

串の中より串をさし
串をさし入して串を
さし



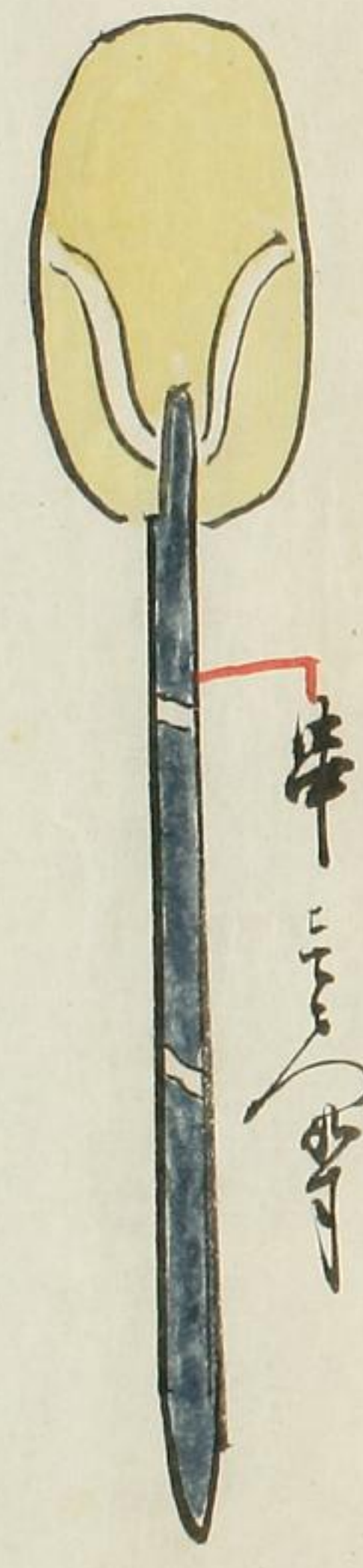
串立板



串立板

一串のまげに二串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし
うらや 串の中より串をさし

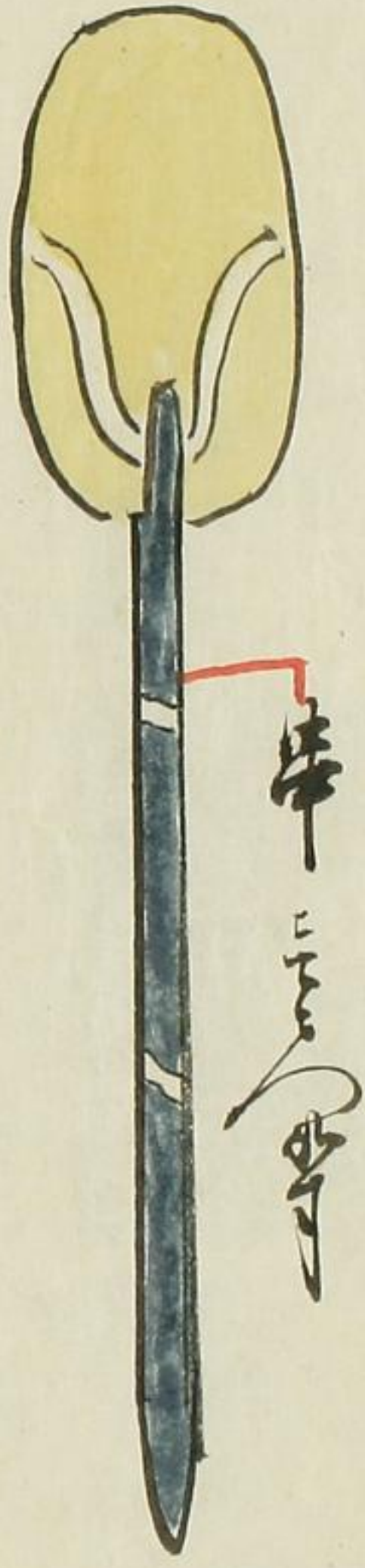
串立板



串立板

ふらふら〜串ハ武の串 日向から

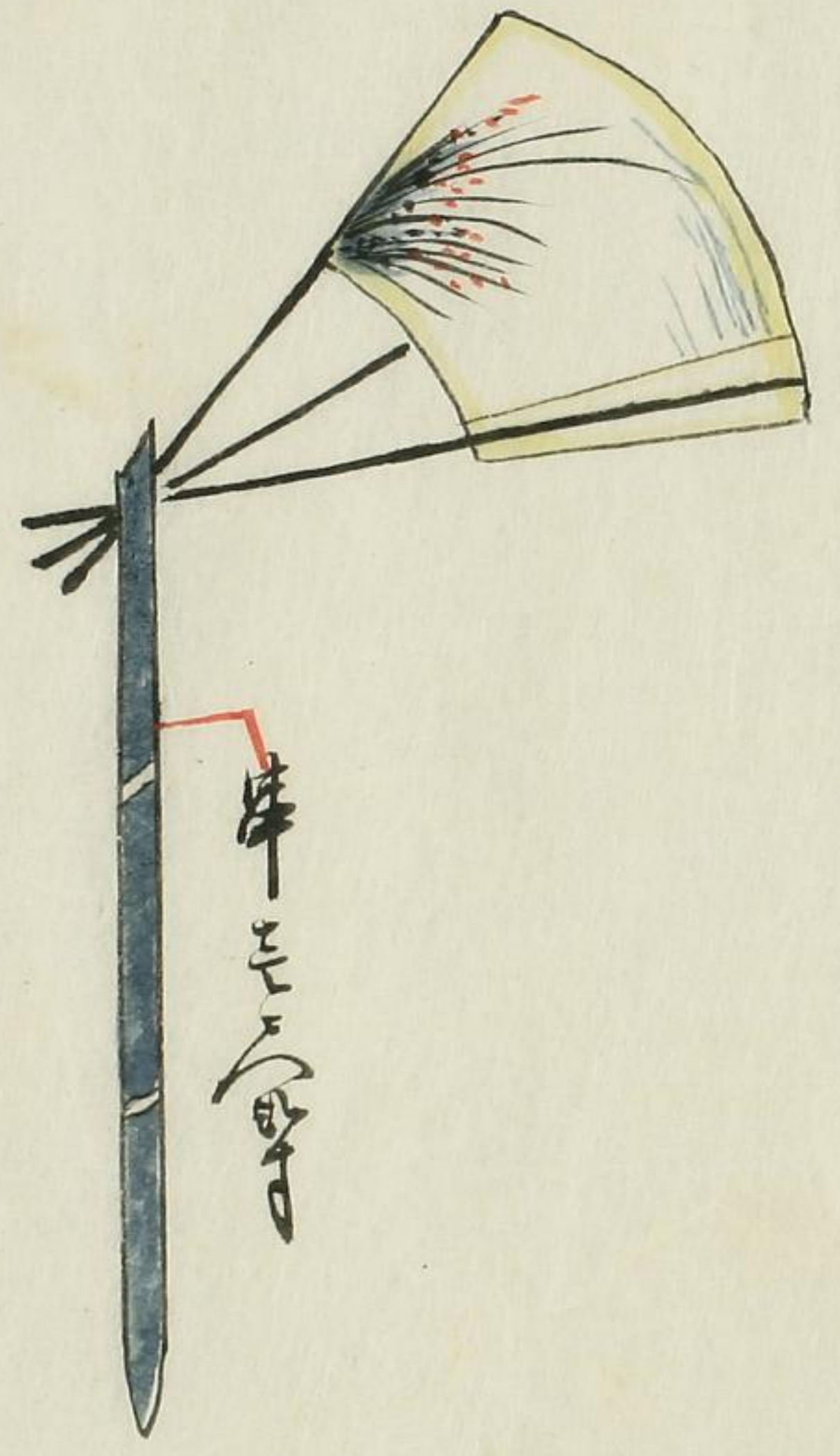
足半之縁



足半之縁

一 足半之縁は〜のふと披
足半の〜を 村さす縁〜を
を 杖さす縁〜を 杖さす縁〜を
の 杖ハ武から

扇之柄



一 扇之柄は〜の扇とさす縁
印さす縁と縁〜を 杖さす縁
を 杖さす縁〜を 杖さす縁

一府之格はれどは郡と云ふ所
 印しき其意と云ふて云々地
 となす村安らなりと云ふを
 村とせ申す武のくは申す
 さい村を安んずしとせし入
 村と云ふは役印は四月五日
 村と云ふは骨の入りたる外
 りの骨の中なるを申すす
 其ら骨と云て村申す申す
 府と云ふは村と云ふと大に
 ありはたなりははるる
 す亦府は武士のちとて村
 意と云ふは是れも村人治す
 平らに云ふははるるを
 力の村は村申すに申すの
 村申すは申すは申すは申す
 ははらに云ふははるるを
 小に云ふは申すは申すは
 うつと云ふは申すは申す
 鏡と云ふは申すは申すは
 人ははらに云ふは申すは

鏡とひしりかんのけふのまゝに
人れいさしよふこふぢ

鼻紙之縁



鼻紙之縁

一鼻紙之縁め紙半の式の半同ぢ
く紙の切めの方おれ下らる角を
採ててを紙れおめいおれと
角と縁の角通るをさる

一鼻紙を付る付る角紙縁を古と
わりしつゝ柄をよとやめて紙
く紙を付る角同ゆらる紙を
そらるまらり

一紙を立てて付る半一紙時紙
浦濱をよと半紙時紙を
切て半と紙を半紙の紙を

右の紙を紙の紙を紙の紙を
紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙

右に於て弘安五年申 公家の
家傳お流の神傳あり家流
く之依く之流ありくわ
手ふふ可同く相承流ハ如
たるる具足記之く世傳傳
ちきく 深きく之細くおん
く之く

此一軸挿物に深き相承代
之子孫蒸く之可なり此世之
惟乃親子兄弟相承代
者不可傳受之仍如件

弘治元年

八月在旦 信豊之 画

右に於て一巻挿物之法唯授
雖為神書之授也物同依有
今洞續畢 仁先割之旨實子
相承之者之有也此之世也仍如件

右此一卷排物之法唯授是入
雖為秘書書之授滿目依有之
今洞續畢仁先割之旨實實子
於空之者了有也進之老也仍如汗

精屋尤近

武成
園

海野仁左衛門

景亮
五

久代藩兵衛

信秀
五

山村主鈴

喜時
五

山村主鈴

喜時



1. The ...
The ...

△ 卷 五

抄 物 書

